2．知の拠点としての地域貢献支援メニュー郡
「地域における社会貢献事業支援」－地域の子育て・ものづくり支援－
日本私立学校振興・共済事業団

総合経営学部　観光ホスピタリティ学科

白戸　洋

・申　請・

プロジェクト名：「松本タウンマップ」・「マザーズライフ」による子育て支援とまちづくり

実施期間：平成19年4月～平成22年3月

プロジェクト目的：　本事業は、子育て中の親が、子どもと一緒に松本市街地を訪れ楽しめるように、ホームページ「まつもとタウンコンパス」http:/www.matsu.ac.jp/matsumoto_u/u_net/town_conpass/conpass_top/town_conpasu_top.html）に「マザーズライフ」を作成し情報を発信するとともに、「ユニバーサル・デザインのまちづくり」を進め、さらに子育て支援活動を展開することが目的である。

具体的には、①子育て中の親に様々な情報を提供し、市街地が親子の「居場所」となる環境を創出、②街づくりに親子や子どもの視点を取り入れる、③学生がホームページの作成・更新や様々な子育て支援活動を通じて、地域の子育ての現状や課題を直接実感し、自らの問題として意識を高める機会とする、④以上を通じて子育て支援や街づくりの実践的なネットワークを構築することを目指している。

本事業は、昨年から開始したが、子育て中の母親のニーズや課題の把握、子育てと街づくりというテーマによる研究会の開催、これらを通じた子育てとまちづくりを具体的に結びつけるネットワークづくり等に取り組んできた。本年度は、これらを継続して取り組むとともに、昨年度アンケートやヒアリング調査で把握した子育て中の母親のニーズを踏まえ、子育てに優しいまちづくりの事業及び子育て中の母親の関心が高い食に関わる事業に重点を置いて実施する。

具体的には、①子育ての優しいまちづくりとして、上土商店街を対象とする、親子ラリーなどの、子育てとまちづくりを結びつけたモデル事業の実施、②子どもに優しい食づくりとして、子育てグループと学生が協力して親子連れに優しいメニュー開発とその製品化の2つの事業をモデル事業として実施する。また、これらの本事業の成果をホームページに掲載する。

・報　告・

地域への成果：子育て支援について、以下の事業を実施し、成果をあげた。

①　ホームページ「まつもとタウンコンパス」http:/www.matsu.ac.jp/matsumoto_u/u_net/town_conpass_top/town_conpasu_top.html)を更新し、子育て支援に関する情報を発信した。

②これまで取り組んできた子育てに関する情報や子育てとまちづくりについてまとめ、松本大学出版会より「まちが変わる～若者が育ち、人が元気になる松本大学生がかかわた松本のまちづくり」として出版し、情報の発信を行った。

③松本市上土商店街を拠点として同振興組合女性部と連携し、子育ての視点からのまちづくりについて研究・実践を行った。特に、平成20年6月には子育て中の親

子を対象とした「レトロ探検スタンプラリー」を学生が参画して実施し、母親や子どもの視点からまちづくりの現状を検証した。また、親子連れが安心してまちを歩くことができるよう、ユニバーサル・デザインの観点からまちを見直し、バリアフリー調査などを行った。

④商店と連携して商品開発を行い、子育ての視点からの商店街の活性化について取り組んだ。特に、子育て中の母親のニーズを捉えた食品の商品開発をめざし、食品の試作や原材料の成分分析などの作業を実施した。その成果のひとつとして、サークルKサンクスと共同企画による、ミニ弁当「ママの気遣いカップドン」という商品の開発に、子育て中の母親と協力して取り組み、平成21年夏に県内で発売する予定である。

⑤上記の事業を通じて、松本市子育て支援課及び子育て支援サークルと協力関係を構築し。子育ての視点からのまちづくりのネットワークを構築した。

⑥成果をリーフレット「松本大学の学生の見た商店街の魅力」として取りまとめた。

成果の公表：報告会「子育て支援によるまちづくりの取り組み」
松本市上土商店街進行組合・松本大学　H 21.3.15
「こどもの食育を考えよう～cupDON開発を通じて変わった意識」
松本大学白戸ゼミ・サークルKサンクス　H 21.2.26
白戸洋編著「まちが変わる～若者が育ち、人が元気になる松本大学生がかかわった松本のまちづくり」　松本大学出版会　H 21.3.31

尻無浜　博幸

・申　請・

プロジェクトの課題：福祉実習・ボランティア活動による障害者の社会的・経済的自立支援

プロジェクトの期間：平成19年4月～平成22年3月

プロジェクトの目的：本事業では、地域における学生の社会福祉実習やボランティア活動を通じ、学生を育てつつ、学生が参画した地域福祉や地域づくりを行なう。特に高齢者・障害者の社会的・経済的自立を重視し、仕事作りよる社会参画の促進を目的としている。松本大学観光ホスピタリティ学科では、社会福祉士の育成に取り組み、特に現場に学ぶことと現代的なニーズに対応できる人材育成を中心課題とし、これまで蕎麦の栽培やブルーベリー等の労働集約型の農業。農産加工業を活用した仕事作りとバリアフリー観光のモデル作りを実施している。さらに昨年度より、障害者のコミュニティ・ビジネスを支援するための生産、流通、販売の一貫したシステムのあり方の検討をおこなっている。本年度は特に生産、流通、販売の一貫したシステムを具体的な事業に取り組むことで学生が直接学ぶ事を目的として、フランス鴨の飼育と製品化に取り組むこととする。

・報　告・

プロジェクトの成果：本年度は生産→流通（処理）→販売の一貫したシステムを具体的な事業に取り組むことで学生が直接学ぶ事を主眼においた。実際にフランス鴨を用いて展開した。9月～10月に生産、11月流通、12月～1月販売をとおして達成できた。関わった学生は社会福祉士となる専門職を目指す学生と自らスペシャルニーズをもつ学生が関わった。自らスペシャルニーズを抱える学生は、自らの体験を生産過程にフィードバックできたし、社

会福祉士の専門職を目指す学生にとっては、ネットワークの重要性と障害程度と作業工程のマッチングを図ることができた。本事業は、高齢者や障害者の雇用創出とソーシャルビジネスに基づく新しい就労形態の在り方を形成することが最終の目的である。部分的にはそばを用いた取り組みも行ったが、複合的な品物を扱いながら社会的経済的自立の目途を立てていきたいと考える。

成果の公表：フォーラム開催

「フランス・かも～るハウスによる　在宅障がい者の一般雇用のあり方を考えるフォーラム」(2008年11月30日・松本大学)

→モデル構築の提起として、テーマ：「社会的就労組合の可能性」発表

眞次　宏典

・申　請・

プロジェクトの課題：学生が参画した松本駅西口のまちづくりと人づくり

プロジェクトの期間：平成19年4月～22年3月

プロジェクトの目的：松本駅西口地区は平成15年より駅の整備事業と道路拡張が進み、特に高齢者が6割を占める巾上西町会では、人口の3割が立ち退き、コミュニティ崩壊の危機にさらされた。これに対し、住民による主体的なまちづくりが始まり、①景観の保護等「アルプスの景観を守る」、②日常生活に必要な店舗整備やバリアフリー化等「高齢者安心して暮らせる」、③地区を流れる田川の活用や交流拠点の整備等「人の交流する」ことを掲げまちづくりを推進し、昨年4月には学生の支援によって、交流拠点としてコミュニティ蕎麦屋「いばらん亭」が開店した。本事業はこのような住民が進めるまちづくりに学生が参画し、本学の学生の専門性を活かした調査や実践活動を行ない、学生の視点でまちづくりに貢献するとともに、事業を通じて学生をまちづくりの担い手として育てることをめざすものである。本年度は特に景観の保全とともに、景観を活用した地域づくりの事業を展開する。

・報　告・

プロジェクトの成果：　昨年度は、住民協定の締結など景観の保全、バリアフリー化と店舗の整備等の高齢者が安心して暮らせるまちづくり、「いばらん亭」や田川の活用など駅前の田舎の町の賑わいの創出について取り組んできたが、本年度は、特に駅前の田舎の町の賑わいの創出を重点として、①青空市場や若者の発表の場など、西口広場の活用及び②西口の景観を活用する「ゆったり夢街道」事業について取り組む。西口広場の活用については、青空市や若者によるイベントなどのモデル事業を実施した。

①　まちづくり学習会の実施

本年度の重点事業である、西口広場の活用及び「ゆったり夢街道」をそれぞれテーマとして、平成21年1月から4回にわたり、「まちづくり学習会」を開催し、地域住民、学生、大学教員が参画して協議を行った。

②　西口広場の活用事業

西口広場の活用として、4回にわたって朝市を開催し、定期的な朝市の開催に向けて検討を行った。また、まちづくり学習会における協議から、

若者が参画した西口広場の活用案として、若者の発表の場をつくることが提案され、3月に実施することとして準備を行った。予定した期日は悪天候のために規模を縮小して実施した。

③「ゆったり夢街道」事業

「ゆったり夢街道」の構想については、5月に学生も参画してルートの概要の調査を行い、8月には地域住民と学生によるルートのバリアフリー調査と資源調査を実施した。バリアフリー調査では、車椅子　を使用して高齢者が散策できるルートづくりについて取り組んだ。その結果を検討し、車椅子とセニアカーの導入を決定した。資源調査では、地元公民館の協力を得て、さまざまな文化、歴史、生活資源について詳細に調査を行い、資源マップを作成した。

これらの成果を踏まえて、まちづくり学習会において今後の事業について検討を行った。

成果の公表：「地域が若者を育て、若者が地域を育てる」生涯学習推進講座Ⅴ
長野県生涯学習センター　長野県生涯学習センター　2008年9月11日
「地域課題・時代の変化と公民館のあり方」長野県公民館大会基調報告
長野県公民館運営協議会　2008年10月2日
「新しい地域を若者と高齢者で拓こう」　ヤングとシニアのまちづくり研究会基調講演　信州ソフトウェア協会・松本大学　2008年3.月5日
「大学教育におけるコミュニティ・ビジネスを通じた「地域における学び」の実践～「地域を壊す教育」から「地域を創る学び」への転換～」
『松本大学研究紀要 第7号』(通巻第59号)　2008年1月
『まちが変わる～若者が育ち、人が元気になる松本大学生がかかわった松本のまちづくり』　松本大学出版会　2008年3月

3．新たな学習ニーズへの対応　「新規学習ニーズ対応プログラム支援」
日本私立学校振興・共済事業団

総合経営学部

尻無浜　博幸

・申　請・

プロジェクト名：地域福祉の担い手を養成する人材育成プログラム

期間：平成20年度4月～平成23年3月

目的：本事業は、社会福祉系の大学を無資格で卒業し福祉施設で働きたくとも働けない人、および他の職種から福祉関係の仕事への職種移行を希望する社会人などを対象に、地域の福祉を担う専門家である「社会福祉士」になるための学び直しのプログラムである。このプログラムは、社会福祉士の資格取得を目指すと同時に介護福祉制度を利用する家族へ適切なアドバイスができる広い視野を持った社会福祉士の育成を目的とし、地域の福祉リーダーとなるように教育する。

・報　告・

成果：まず「社会福祉士」になるための具体的な取組として、１２月と１月に国家試験の直前対策講座を社会人など対象に地域に呼び掛けて行った。これは、資格取得者支援として職種